

7 東部地区（水産）

（1）現状と課題

圏域の海面では、定置網を主力として、小型底びき網、すくい網、船びき網、釣・延縄漁業等の多種多様な沿岸漁業が営まれています。沿岸漁業では、これまで殺菌冷海水の活用、活メ処理などによる高鮮度保持の取り組みが行われ、市場でも高い評価が得られてきました。

しかしながら、漁業を取り巻く環境は非常に厳しく、資源の減少、魚価の低迷、燃油等コストの高騰、就業者の高齢化と担い手不足など多くの課題を抱え、所得の向上に十分繋がっていない状況にあります。これらの状況を改善し、安定した漁業経営を維持するために、地域の特性に応じた漁法の複合化や魚価の向上対策など、関係機関と連携を図りながら取り組みを推進する必要があります。

また、宍道湖、中海、神戸川及び神西湖における内水面漁業においても、環境変化による資源量の減少が課題となっており、資源回復に向けた取り組みが進められてきました。今後もさらなる資源の維持増大のため、これらの取り組みを継続し、圏域の湖沼や河川における水産振興を図る必要があります。

（2）重点的取組の展開方向

①基幹漁業の構造改革のさらなる推進

出雲地域の基幹漁業である定置網漁業については、これまでワカメ養殖等との複合経営により経営の安定化や担い手の確保を一部の経営体で実現しました。このようなモデル事例を他の経営体にも応用することや、さらには地域ごとの漁業の特性を見極めながら、活メや活魚出荷の取り組み拡大、産地での一次加工など、出荷方法を見直すことによって、収益性の改善を図り、漁業経営の安定化を図ります。

②地域の実態に即した漁業所得向上対策の推進

漁業所得向上対策として、多様な漁法を活用する複合経営を推進するとともに、魚価の向上、水産物の消費拡大の取り組みを推進します。活メなどの鮮度保持技術を導入し、付加価値向上を図るとともに、消費者ニーズ、流通トレンドにマッチした商品づくりと供給体制の構築を図り、収益性の向上を目指します。

また、圏域の特産品である板ワカメの原料を供給するワカメ養殖については、養殖技術の定着と生産工程の効率化を図り、さらに島根半島でブランド化を進めているイワガキ養殖については、生産体制を強化し、地元ブランドの定着を推進します。

③漁業就業者の育成・確保

担い手育成事業を積極的に活用し、意欲のある担い手を支援します。また、新規就業者の定着を促進するためのフォローアップ体制を構築します。

さらに近年、新規就業の多いワカメ養殖については、フリー配偶体技術の指導やベテラン漁業者による養殖・加工技術指導により、技術の早期定着を図ります。

④宍道湖・中海の水産資源（シジミ・二枚貝）の回復

宍道湖では、シジミ資源の回復を目指し、天然採苗・放流等の資源の維持・増大に向けた対策を検討・実践します。

また、中海ではアカガイ（サルボウガイ）、アサリ等の二枚貝の漁業再生に向けて実用的な養殖技術の開発を推進するとともに、その採算性についての評価も実施します。

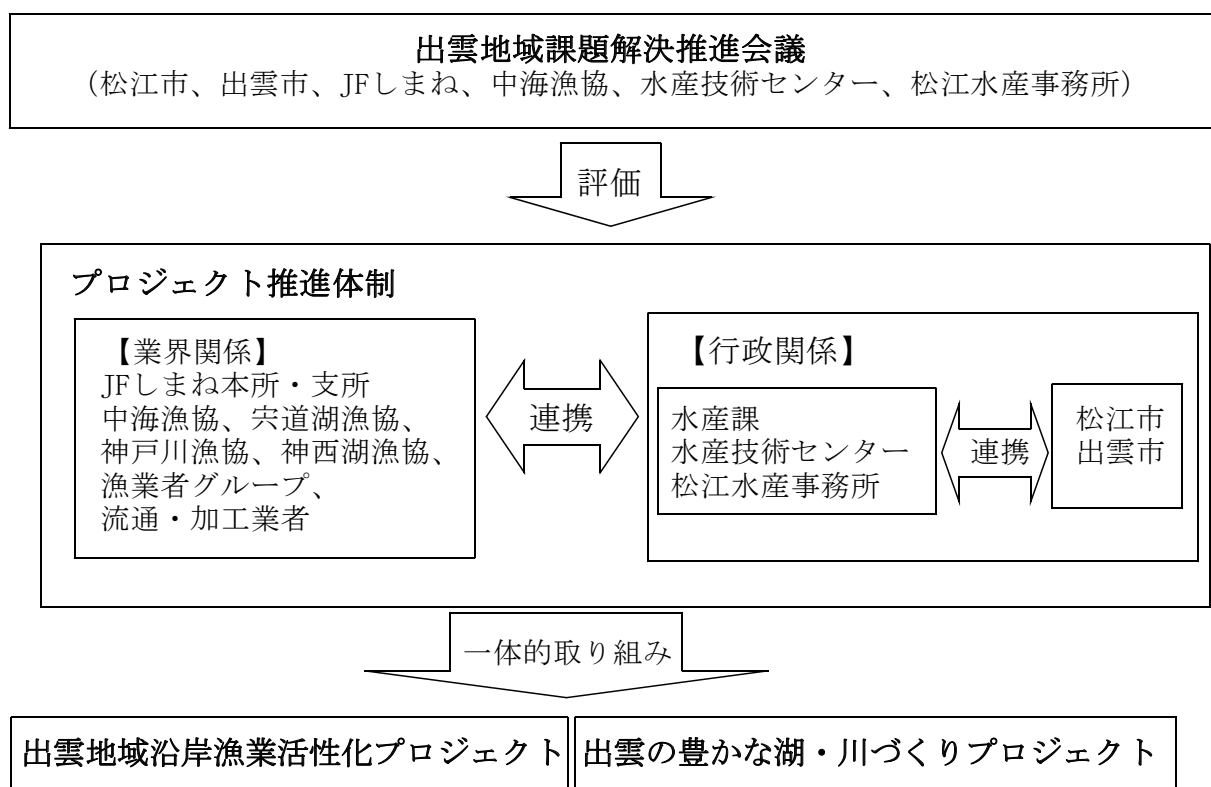
⑤天然アユ等の資源回復と利活用の促進

神戸川における天然アユ資源の回復を目指し、これまで実施してきた種々の調査結果に基づき、産卵親魚の保護やアユのスムーズな移動方法（流下・遡上・降下）を検討します。その上で、関係機関と連携しながらアユ資源の増大に向けた取り組みを推進します。

(3) 主な指標の将来見通

項 目	H26	→	H31	備考
1 漁業生産				
①海面漁業生産額（億円）	54	→	57	
②基幹漁業生産額（億円） （まき網・沖底・小底・定置）	21	→	22	
2 担い手の育成確保				
① 新規漁業就業者数（人）	14人／年	→	42人 (H27～31累計)	
3 環境保全				
①シジミ生産額（億円） （宍道湖・神西湖）	21	→	30	

(4) 推進体制



(5) 地域プロジェクト

- ① 出雲地域沿岸漁業活性化プロジェクト
- ② 出雲の豊かな湖・川づくりプロジェクト

東部-1

出雲地域沿岸漁業活性化プロジェクト

東部地区（松江市、出雲市）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

出雲地域では、定置網を主体とした沿岸漁業が漁村地域を支える重要な産業となっている。しかし、近年の漁獲の不安定化や魚価の低迷、度重なる荒天等による操業の停止等、不安定な経営環境にさらされている。

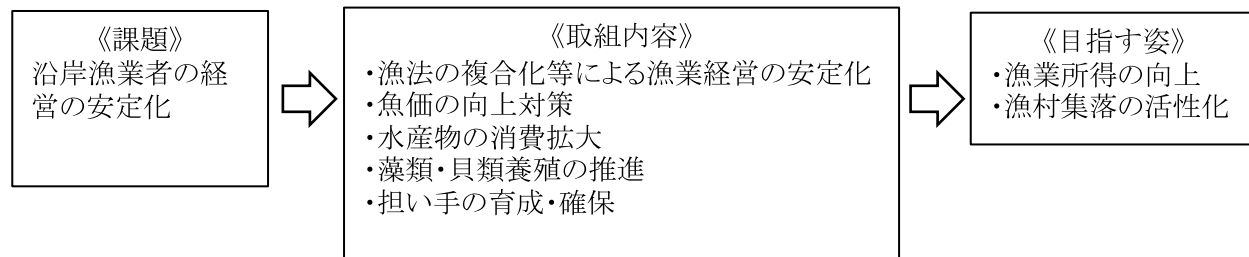
そこで、収益性の改善を図り、経営の安定化を目指して、定置網漁業では、冬季休漁期の収入の確保と従業員の周年雇用を図るため、ワカメ養殖との複合経営を推進し、一本釣等の沿岸漁業では、活メ技術等の導入による漁獲物の高鮮度化を図り、魚価の向上に取り組んできた。また、養殖業においては、ワカメ養殖では、フリー配偶体技術の導入による作業の省力化と管理施設の集約化を、イワガキ養殖では、生産量の拡大と販路拡大を推進してきた。しかしながら、これらの取り組みは一部の経営者・漁業者に限られ、その効果も限定的なものとなっている。

このため、本プロジェクトでは、従来の取り組みを継続するとともに、それぞれの漁業において、地域ごとの特性を見極めながら、新たな取り組みも取り入れて、経営の安定化を推進していく。

取組

- 漁法の複合化等による漁業経営の安定化
 - ・定置網漁業とワカメ養殖やイワガキ養殖といった養殖業との複合経営化の推進を継続するとともに、産地での一次加工など6次産業化による収益性の向上を推進する。
 - ・かつて地域で行われていた多種多様な漁法を再評価し、多様な漁法を活用する沿岸漁業の複合経営モデルを構築する。
- 魚価の向上対策
 - ・活メ技術や保冷技術の導入により、高付加価値化を推進する。
 - ・消費者ニーズにマッチした加工品の開発や出荷方法の検討を行う。
- 水産物の消費拡大
 - ・小学生を対象とした水産教室の実施や魚食普及活動を通じて地元水産物の認知度向上と消費拡大を推進する。
- 藻類・貝類養殖の推進
 - ・藻類養殖技術の向上と生産工程の効率化を推進する。
 - ・試験研究機関と連携して、ハバノリやワカメのベビーリーフなど新しい藻類養殖の普及に取り組む。
 - ・養殖イワガキの生産体制や販売力を強化し、地元ブランドの定着を推進するとともに、安定した販売ルートを確認する。
- 担い手の育成・確保
 - ・新規就業者の定着を促進するため、新規就業者に対するフォローアップ体制を強化する。
 - ・漁労技術の継承や地域での取り組みを円滑に推進するため、新規就業者間、あるいは新規就業者とベテラン漁業者とを結ぶネットワークを構築する。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 沿岸漁業活性化プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
漁法の複合化等による漁業経営の安定化	定置網の経営実態や要望等の把握	JFしまね、漁業者、県	H28～29
	兼業種の導入や出荷方法の見直し、6次産業化の検討及び実践	JFしまね、漁業者、市、県	H28～31
魚価の向上対策	活〆技術、保冷技術等漁獲物の鮮度保持技術の導入	JFしまね、漁業者、市、県	H28～31
	消費者ニーズ、流通トレンドにマッチした商品づくりと供給体制の検討及び実践	JFしまね、漁業者、加工業者、県	H28～31
水産物の消費拡大	水産教室の実施や魚食普及活動を通じた地元水産物の認知度向上と消費拡大	JFしまね、漁業者、市、県	H28～31
藻類・貝類養殖の推進	養殖イワガキの生産体制の強化と地元ブランドの定着	JFしまね、漁業者、市、県	H28～31
	養殖ワカメのフリー配偶体技術の普及による生産工程の効率化	漁業者、県	H28～31
	ハバノリ・ワカメベビーリーフの試験養殖の実施	漁業者、県	H28～31
担い手の育成・確保	新規就業者の定着促進に向けたフォローアップ体制の構築	JFしまね、漁業者、市、県	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項 目	現況（H26）	目標（H31）
定置網の生産金額 【総合戦略】	13億円 →	14億円
年間水揚げ金額300万円以上の自営漁業者の人数 【総合戦略】	108人 →	115人

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：松江水産事務所、水産技術センター、松江市、出雲市、JFしまね、水産課
 ○連携・協力機関：漁業者グループ、流通・加工業者

東部-2

出雲の豊かな湖・川づくりプロジェクト

東部地区（松江市、出雲市）

5つの柱の区分【 県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能 】

1 目的と取組

目 的

平成23年に策定された「第2期宍道湖・中海水産資源維持再生構想」に基づき、汽水域の特性や環境・生態系との関連を重視した「環境保全型の漁業」の推進を図るため様々な施策を展開した。その結果、宍道湖においては漁場改善技術の開発・普及、シジミ（ヤマトシジミ）資源の変動要因として、餌となる珪藻の重要性等が指摘された。中海では、アカガイ（サルボウガイ）やアサリの天然採苗技術の向上や垂下式かご養殖技術の開発など一定の成果が見られた。

しかし、シジミ（ヤマトシジミ）資源は危機的な状況を切り抜けたものの、資源変動原因が明らかとなっていない。また、本県のシジミ（ヤマトシジミ）の主要産地である神西湖についても資源状況の把握や資源の維持増大に向けた対策を講じることが必要である。

また中海ではアカガイ（サルボウガイ）やアサリといった二枚貝の増養殖を進めているが、漁業の復活再生のためには、湖底環境の改善、垂下式養殖での採算性などの問題が残されている。

さらに神戸川では、第2期活性化計画「出雲の豊かな川・湖PJ」において、天然アユの資源回復を目指し、種々の取り組みを行ってきたが、資源の回復には繋がっていない。そのため、水産技術センターの調査結果や、アユの専門家による調査結果に基づいた提言を参考に、資源回復のための取り組みを推進する必要がある。

本PJでは、県PJ「宍道湖・中海の水産資源維持・再生PJ」と連携し、宍道湖・神西湖では「漁業の維持増大」、中海では「漁業の復活再生」を推進するとともに、第2期PJで神戸川において取り組んできた「天然アユ資源の回復」と併せて出雲地域の湖沼や河川における水産振興を図る。

取 組

【宍道湖・神西湖】

○シジミ（ヤマトシジミ）資源の維持・増大

- ・宍道湖保全再生協議会による資源回復手法の提言に基づく資源増殖対策を検討する。

【中海】

○アカガイ（サルボウガイ）、アサリ等二枚貝を対象とした効率的な養殖技術の開発

- ・実用的な養殖技術の開発および採算性の評価を行う。

【神戸川】

○天然アユ資源の回復

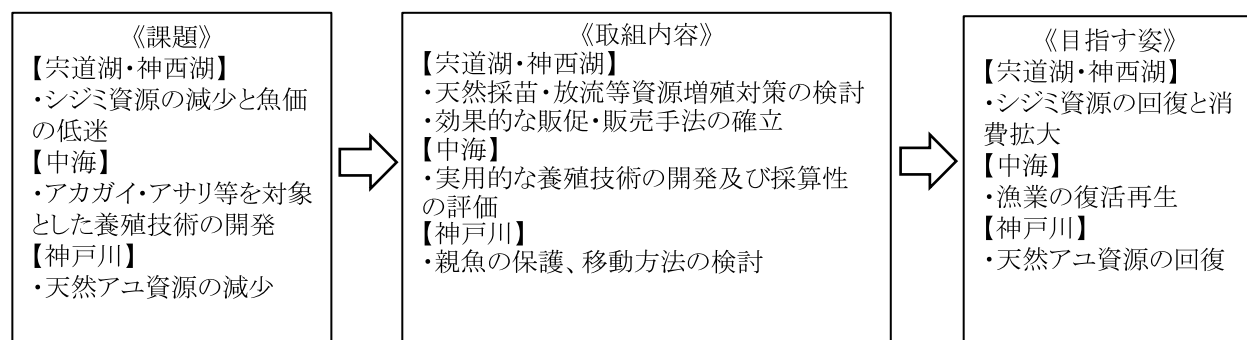
- ・産卵期の禁漁等漁獲圧の低減を推進する。
- ・適切な手法による産卵場の造成を図る。
- ・スムーズな遡上・降下及びふ化仔魚の流下方法を検討する。

【宍道湖・神西湖】

○シジミの消費拡大のための対策

- ・生産物の認知度向上のための産地PR対策の検討を進める。
- ・生産物の規格等の見直しと改善、品質の向上を検討する。
- ・共販体制の導入等新たな販売手法を検討する。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 宍道湖・中海の水産資源維持・再生プロジェクト（県共通）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
【宍道湖、神西湖】 シジミ（ヤマトシジミ）資源の 維持・増大	天然採苗・放流等の資源増殖対策の 検討	漁協、県、市、国	H30～31
【中海】 アカガイ（サルボウガイ）、アサリ等 二枚貝を対象とした効率的な養殖技術の開発	アカガイ（サルボウガイ）、アサリ等 二枚貝の効率的な養殖技術の開発	漁協、漁業者、県、市	H28～31
	アカガイ（サルボウガイ）、アサリ等 二枚貝養殖の採算性の評価	漁協、漁業者、県、市	H28～31
【神戸川】 天然アユ資源の回復	産卵期の禁漁等漁獲圧を低減するための 対策の検討と実践	漁協、漁業者	H28～31
	適切な手法による産卵場の造成	漁協、漁業者、県	H28～31
	スムーズな移動方法（遡上、降下、 ふ化仔魚の流下）の検討	漁協、県、市、国	H28～31
【宍道湖、神西湖】 シジミの消費拡大のための対策	認知度向上のための産地PR対策の 検討と実践	漁協、漁業者、県、市	H28～31
	生産物の規格等の見直しと改善による 品質向上の検討と実践	漁協、漁業者、県、市	H28～31
	共販体制の導入等、新たな販売手法 の検討	漁協、漁業者	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項 目	現況（H26）	目標（H31）
シジミ生産額 【総合戦略】	21億円	→ 30億円

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：松江水産事務所、水産技術センター、松江市、出雲市、漁業協同組合、水産課
○連携・協力機関：漁業者、国土交通省出雲河川事務所、中国電力